

令和7年度 STAGE PROGRAM 海外研修（シンガポール）

〈STAGE PROGRAM 海外研修（シンガポール）とは〉

本研修は、2学年 Ge ゼミ（自分たちの地域を起点にグローバル課題を考える）の生徒を対象に、(1)海外の学生との意見交換や海外フィールドワークを通して英語の表現力を磨き、外国の方と対等に話し合えるコミュニケーション能力を高めること、(2)異なる文化・背景・価値観に触れ、見て、感じる経験を通して視野を広げ、国際人としての幅広い素養を身につけることを目的としています。

2026年1月4日（日）～9日（金）、本校2学年の生徒10名がシンガポールで海外研修を行いました。現地では、各自の探究テーマに基づき、さまざまな場所でインタビューを中心としたフィールドワークに取り組みました。また、日系企業を訪問し、海外で働くうえで大切にしたい姿勢や考え方について、現地で活躍する日本人の方からお話を伺いました。さらに、ナンヤン女子高校やシンガポール国立大学では、交流活動やディスカッションを通して、多くの学びや新たな気づきを得ることができました。今回の貴重な経験を生かし、今後の探究活動をさらに深めるとともに、体験を通して得たグローバルな視点を育んでいきます。



〈参加した生徒の声〉

私にとってこの研修はとても実りの多いものであり、さまざまな経験を通してたくさんのことを学びました。そのなかでも特に、自分の心を開き、信念を貫いて自分の心に素直に行動することや、笑顔の大切さを強く感じました。シンガポールは多文化国家であり様々な人が共存していますが、それぞれが自分の文化、ひいては自分らしさを大切に、胸を張って生きている姿がとても心に残りました。私自身、周りに流され、自分らしさを見失ってしまいがちなところがあるのですが、これからはどこに誰といても自分らしくいられるほど、自分のことも大切にしていこうと思いました。またインタビューや高校、大学訪問の際、初めは緊張していましたが、相手の方々が心の壁をつくらず、素敵な笑顔で受け入れてくれたおかげで、コミュニケーションを楽しむことができました。笑顔は世界共通のパスポートという言葉がありますが、全くその通りで、異なる国や文化の人と話す際も笑顔と相手を思いやる気持ちや会話を楽しみたいという前向きな気持ちが大切なのだと感じました。

そして何より、少し幼稚な表現ですが、この研修のどこを切り取ってもとにかく楽しかったです。英語にたくさん触れられたこと、いろいろな人と英語で話し、英語というツールを使って自分の世界をどんどん広げていける感覚がたまらなくおもしろかったです。そこから、これからも国の

垣根を越えてもっとたくさんの人と関わりたい、そのために英語をもっと学びたいという思いがより一層強くなり、自分の学習意欲や進路達成へのモチベーションが格段に向上しました。

このような貴重な経験をすることができたのは、多額の補助をしてくださった同窓会・後援会の方々、多くの面でサポートをしてくれた両親、長期間引率してくださった先生方をはじめとする多くの方々の支援のおかげです。研修での学びを活かして、今後の活動により一層励んで参ります。本当にありがとうございました。

私たちは1月4日から9日にかけて、シンガポールでの、調査活動をはじめとしたフィールドワークを行いました。4日、経由地の仁川空港でも練習を兼ねてインタビューをし、積極的に声を掛けて話を聞いて、その後の活動へ弾みをつけることができました。5日、到着後、アラブストリートやリトルインディアなどシンガポールならではの多文化を感じられる場所で、いろいろな国籍の方に対してインタビューをすることができました。シンガポールは大きい国ではありませんが、場所が移り変わると景色や雰囲気がガラッと変わりとても興味深いものでした。6日、日本食のスーパーを営む明治屋様を訪問して見学をするとともに、そこでグローバルに働いていらっしゃる日本人の方から貴重なお話を聞くことができました。そして、チャイナタウンに行き異文化を体験した後、マーライオンパークやマリナーベイサンズに行き、世界有数の観光地を体験できました。7日の午前はナンヤン高校を訪問しました。今回、交流をしたのは私達よりも年下の生徒でしたが、親しみやすい方々でした。お互いの文化紹介や、高校生活、興味のあることなど日常的な会話を通じて交流を深めました。その後、授業を見学しました。日本の授業と比べて、グループで意見交換をしたり、発表を進んでしたりと実践的に学んでいる印象を受けました。そして午後はペアによる自主研修でした。ガーデンズバイザベイなどの観光地でインタビューを通じて探究活動の情報収集を積極的に行いました。8日の午前はシンガポール大学を訪問しました。大学生の方々は日本語が流暢だけでなく日本の知識も豊富で質の高い交流ができました。午後はオーチャード・ロード、313@サマセットで調査活動をして、深夜にシンガポールを出発しました。

この5日間はペアでの調査活動、各地の見学、学生との交流を通して貴重で有意義なものとなりました。この経験値を今後の活動に活かしていきます。

海外研修を通し、私は今まで体験したことのないくらい多くの外国人の方と会話をしました。空港や街中での聞き込み調査、現地の学生との懇談、建物の場所が分からない時はお店の人に質問もした中で、初めは「自分の話に興味を持ってくれないかも」というネガティブな思いばかりでした。しかし多くの方がアイコンタクトやジェスチャーで自分の考えを表現してくれて、国や人種の違いを気にする必要はなく、会話をしようとする意欲があれば、どんな人とも交流できると知りました。

私は研修に行く前に、「できるだけ多くの国の人と話したい」と思っていました。世界中の食文化や行事を紹介しているテレビ番組を見て、私も国ごとの文化の特徴をインタビューしたいと思ったからです。実際にシンガポールの調査活動では、タイ・ロシア・マレーシア・韓国など、12カ国の30人以上の人と出会いました。一人五分程度の短い時間でしたが、相手の文化を聞くだけでなく、日本文化の魅力も伝えられたことが嬉しかったです。私の探究活動のテーマである日本食の認知度についても聞き、ほぼ全員が寿司や天ぷらといった代表的な日本食を知っていました。あるタイ出身の方は毎朝自家製納豆を食べており、日本食は健康に良いので大好きだと教えてくれました。また、ショッピングモールでは日本食コーナーがあり、日本食がとても愛されていることを知りました。

シンガポールで衣食住・宗教などの様々な面で多文化の存在を知るとともに、お互いが相手の文化を尊重し合うことで多文化共生が成り立つと気付きました。日本でも、宗教の関係で髪を隠しているなど多くの異文化の人が生活しています。将来大学や社会の中でそのような人々と出会った時、相手の文化を尊重する姿勢を大事にしたいと思いました。

最後に、支えてくださった先生方、支援してくださった同窓会・後援会の皆様、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。